

## 平成27年度第1回徳島市立図書館協議会 会議録要旨

- 1 日 時 平成27年9月30日(水) 14:00～15:25
- 2 場 所 徳島市役所本館2階 202会議室
- 3 出席者 委員 委員長 三木スズエ(家庭文庫代表)  
副委員長 新 孝一(四国大学日本文学科准教授)  
高田 厚子(沖洲幼稚園長)  
秋山 浩一(南部中学校長)  
吉成 正一(市文化協会会長)  
盛 幸一(市社会教育委員長)  
諏訪 公子(市中央公民館運営審議会委員)  
小林 雄樹(市議会文教厚生委員会委員長)  
佐藤 義忠(元富田中学校長)  
槇納 正明(徳島県立図書館館長)

事務局 市教委(社会教育課) 石井教育長、西名課長、建島課長補佐、吉岡係長、堤主査  
図書館(指定管理者) 清水館長、廣澤副館長、清水チーフスタッフ

### 4 議 題

#### (1) 平成26年度の活動状況について

図書館長より説明。

##### 《質疑応答①》

委員 TRCは他にも図書館の指定管理を行っているか。他の図書館でのノウハウは運営に活かされているか。

事務局 全国400館以上(内約250館が指定管理者)を運営している。他の図書館での事例を参考にしているほか、それぞれの図書館を紹介し合う連携展示も行っている。昨年度は吹田市立図書館と日本プロサッカーリーグ徳島ヴォルティスとガンバ大阪の試合日程に合わせて展示物を交換し、皆で盛り上げるため企画した。

##### 《質疑応答②》

委員 利用状況の推移の報告があったが、県全体、市の人口も減っていつているなかで新規登録者を獲得するための手立てはとっているか。

事務局 現在登録されているのは市民の半分くらいの方であり、新規登録者の獲得は課題のひとつである。図書館を知らない、使わない層の市民にいかに図書館を知ってもらうかが大事だと考えており、その層の興味をひくようなイベントを行いたい。例えば今年度新しく実施した相続税についての講座などで、新しい層へのアピールができたと手ごたえを感じている。

委員 駅前という好立地へ移転し、徳島駅の乗降客や近隣の会社に勤めている方などの利用が見込めるかと思うが、市外からの利用者でも登録できるのか

事務局 利用登録できるのは、徳島市内に在住の方、通勤・通学されている方、協定を結んでいる定住自立圏連携地域の石井町・北島町に在住の方である。

##### 《質疑応答③》

委員 武雄市の図書館の話題をメディアでよく見るが、TRCが運営しているのか。あれだけメ

ディアに取り上げられている理由は何だととらえているか。

事務局 運営は当社ではなく、カルチュア・コンビニエンス・クラブである。民間ならではのノウハウを前面に出していることが大きいと考えている。カフェの併設や宅配返却サービスなど、新しい取り組みをいち早く取り入れている面では参考になるが、もてはやされる部分と、図書館の本質として考えさせられる部分の両方がある。

委員 徳島市立図書館も全国的に有名な図書館になれるように力を入れてほしい。

《質疑応答④》

委員 多くの学校や幼稚園が図書館見学に訪れているようだが、どのように申し込めばよいか。その際に館内での閲覧やイベントへの参加なども可能か。

事務局 お電話で日時・人数などを伺い、打合せさせていただく。おはなし会を毎日行っており、参加していただけるのでぜひ訪れていただきたい。

## (2) 平成27年度の図書館行事予定と進捗状況について

図書館長より説明。

《質疑応答①》

委員 高齢者施設への出張お話し会は、施設からの要望があれば行ってもらえるのか。

事務局 今まで行った2件のお話し会は施設からの要望もあって行った。連絡をいただければ日程を調節して伺う。

《質疑応答②》

委員 図書館で行っていることを学校・保育所・幼稚園などにどのように知らせているか。

事務局 図書館だよりを市内の小中学校・幼稚園に配布している。

委員 大人への告知はどのように行っているのか。

事務局 館内へのポスター掲示、図書館のHP、大人向けの図書館だよりにイベント一覧を掲載している。また、広報とくしまや新聞などへの情報掲載で周知している。

《質疑応答③》

委員 大人向けの広報に関して、広報とくしまには図書館以外の情報も多数掲載されているが、見ているようで見ていない。図書館で行っていることをどれだけの市民が知っているか疑問である。図書館を知らない・使わない層へ興味をもってもらう意味でも、広報は大切なことなので、市民にもっと周知することが何かできないものかと感じた。

事務局 広報は我々のひとつの課題であり、広報の手段も待っているだけではなく攻めていく手段を次々考えていかななくてはならないと思っている。

《質疑応答④》

委員 郷土資料の電子書籍化に熱心に取り組んでいただいているが、郷土資料の収集は様々なネットワークを使い、定期的に行っているのか。

事務局 書籍的なものも購入しているし、HPで掲載している徳島の昔の写真なども継続して収集している。

委員 館長から図書館の本質という言葉も出ていたが、郷土資料などは、中にはあまり利用のないものもあるかもしれないが、図書館に行けば何らかの資料があるというのが図書館の本質のひとつであると思うので、引き続き収集をお願いしたい。

《質疑応答⑤》

委員 閲覧席、社会人席の利用率はどうか。

事務局 社会人席は月間でも1000人ほどの利用がある。社会人席は区切られたスペースになっ

ており、持ち込みのパソコンが使用できる。利用率はかなり増えてきており、待っていた場合もある。

委員 空間的にスペースを広げることは無理だと思うが、利用率が増えているのであれば、例えば徳島市の施設であるシビックセンターが近くにあるので、難しいとは思いますが図書館側からシビックセンターの会議室が空いていたら借りるなど、閲覧席、社会人席として使用できるスペースの確保を検討していただきたい。

《質疑応答⑥》

委員 実験講座がかなり人気だと思うが、このような講座を増やして実験内容に関連する書籍と一緒に案内するなどの取組みができればおもしろいと感じた。

事務局 講座をひらく時には、関連した書籍を常に用意して並べておき、提供している。

《質疑応答⑦》

委員 報告資料の、利便性向上のところにあるカウンターでのフォーク並びとはどういうことか。

事務局 今は4つ並んでいるカウンターのどこにでも利用者の方が来れる形をとっており、いい面もあるが、入口をひとつにして、空いたカウンターへご案内するフォーク並びが混み合った場合には有効である。スペースの問題もあり、まだ検討の必要があるが、不公平感をなくすためにも実施したいと考えている。

《質疑応答⑧》

委員 今年大きな話題になった『絶歌』については問い合わせや市民からの反響はあったか。

事務局 『絶歌』にはリクエストが何件かきていたが、図書館では社会教育課との協議の上、所蔵しないことに決定した。特に問い合わせ等もなく、大きなトラブルにはなっていない。

### (3) その他

《質疑応答①》

委員 徳島市民が徳島市に関連する資料を見たい、読みたいと思った時に図書館に無いというのでは困るので、故郷を大事に考えて郷土資料の収集に力を入れてほしい。

《質疑応答②》

委員 社会教育課が管轄している徳島市立図書館・徳島城博物館・考古資料館のような施設はどのくらいあるのか。

事務局 所管している文化施設は徳島市立図書館・徳島城博物館・考古資料館・天狗久資料館・青少年交流プラザ・公民館がある。

委員 報告で電子「ぼんぽこー阿波の狸の物語」の原画展を徳島市立図書館と徳島城博物館で一緒に行ったということだが、社会教育課内にある施設で、連携して行う計画は他にはあるか。

事務局 図書館のほうでは今回飯原一夫先生の原画展があったが、その後は計画はない。

委員 徳島城博物館と考古資料館などもあまりないのか。

事務局 扱っている分野等も違うので一概に一緒には難しいが、何らかの接点は見いだせればと思う。

委員 社会教育課の中にある市の施設ということで、ここは一緒にできるのではないかという題材や企画があれば一緒にやっていただくとさらに効果がでると思うのでお願いしたい。

事務局 図書館では、以前に徳島城博物館の学芸員の方に講演をお願いした。今年度の計画にはこちらとの連携事業予定はないが、今後も地域連携は重要なので続けていきたい。

《質疑応答③》

委員 毎年新しい本を購入していると思うが、その選定はどのような方法で行っているのか。

事務局 徳島市から出ている選定方針に従い、毎週スタッフが選び、責任者がとりまとめたうえで、市から承認を得るといった形をとっている。

委員 市民からの声はないのか。

事務局 リクエストという形で受けている。選定基準に合わせてこちらで検討して、入れるべきになったら購入している。

委員 先ほどの話にも出ていた、郷土資料の購入も大事であるし、市民が手に入らないような図書を図書館に揃えてもらいたい。

《質疑応答④》

委員 寄贈されるような本はあるか。

事務局 ある。寄贈に関しては、郷土の本（徳島県、徳島市に関係する本）に限って受けている。

委員 貴重な本に関しては図書館側からも働きかけをして収集してほしい。

《質疑応答⑤》

委員 郷土資料収集に関連して、市役所が作っている地方行政資料を図書館に置くことを推進してほしい。国だと国立国会図書館があり、県は県庁の議会図書館がある。市役所の各課で作られている資料は膨大で、データや市の政策方針など極めて大事なものもある。市が公開している資料が図書館に行ったら自由に閲覧できるようにしてほしい。イベントやその他の活動は非常にすばらしく、利用に結びつくと思うが行政資料収集にも力を入れてもらいたい。